

大学の世界展開力強化事業 構想概要 京都大学

【構想の名称】(タイプA-II)

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 —災害復興の経験を踏まえて—

【構想の概要】

本構想では、東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダー養成を目的とした協働教育プログラムを開発する。単位相互認定及び質の保証を伴うこの教育プログラムを連携大学とともに実施し、他国での受講を推奨することにより、学生の相互交流と留学体験を推進する。さらに、ASEAN連携大学において日本人派遣学生の国際交流や若手研究者が英語教育を行える環境と、日本に受け入れる留学生や若手研究者が、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

本構想では、日本と同様に今後大規模災害の発生が想定されるASEANの大学と連携して中核拠点(世界展開コンソーシアム)を形成し、東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら、強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目的とする。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 質の保証

世界展開コンソーシアムを形成する京都大学及びASEAN連携大学(タイ:チュラロンコン大学・カセサート大学・アジア工科大学、マレーシア:マラヤ大学、インドネシア:バンドン工科大学、ベトナム:ベトナム国家大学)は、いずれもユネスコの高等教育情報ポータルサイ、世界大学ランキングサイト等に掲載されている、それぞれの国でトップレベルの大学であり、所属国における教育省・教育訓練省等から公式に学位授与に関する認可を受けているため、単位の相互認定及び教育の質の確保に関する制度は完備している。

○ 人材育成ニーズに合わせた教育プログラムの提供

本プログラムでは、参画大学間で減災/復旧/復興に関するリーダー養成を目的とした基礎科目・エンジニアリング科目・マネジメント科目からなる英語による教育カリキュラムを構築する。京都大学の学生は、ASEAN連携大学で開講されるエンジニアリング科目履修のために派遣され、ASEAN連携大学の学生は、京都大学で開講されるエンジニアリング科目及びマネジメント科目履修のための受入が行われる。また、本プログラム参加学生のうち、本カリキュラム科目(基礎科目3科目・エンジニアリング科目3科目・マネジメント科目2科目)の単位を所定の成績以上で取得したものには認定書(Certificate)が授与される。

学生の交流は強靱な国づくりを担う国際人育成の第一歩となる(写真:インドネシアバンドン工科大学における学生同士の交流風景)



さらに、京都大学とASEAN連携大学の若手教員が分担して講義するコラボレーション講義科目を行うことで、若手教員の英語教育のFDの機会を設ける。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 教育内容の評価と可視化

構想の実施や達成状況を評価し、その可視化と改善を図るため、評価委員会を組織し、自己評価・外部評価を実施する。教育プログラムの自己評価は、学生へのアンケート結果に基づいた本学の自己点検・評価システムに組み入れることにより、次年度以降の講義の改善やカリキュラムの改良に役立てる。

○ 情報提供と成果の普及

本学の内部に既に存在する様々な全学の国際交流を行っている国際交流支援機構の諸機能をフルに活用しながら、専用ウェブサイトの開設、連携大学へのパンフレット配布、留学生フェア等を利用した広報による情報提供と成果の普及に努める。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生派遣のための環境整備

大学間学生交流協定に基づく交換留学制度や多くの部局で行われている海外インターンシップ・研修実績に基づき、学生への説明会や相談サービスを充実させている。派遣学生は、派遣期間前、期間中、帰国後を含め、アカデミックカレンダーを勘案して策定された学習プログラムに従って学修・研究を実施する。

○ 留学生受入のための環境整備

国際交流推進機構が中心となって各部局と協働で進めており、秋季入学の導入、留学生宿舍の増強、英語に堪能な職員の採用・配置・教育育成、日本語や日本文化教育の強化、生活アドバイザーの増員、日本人学生による支援サークルへの援助など、留学生が学業に専念できるよう積極的かつ強力な支援体制を構築している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本プログラムでは、2年度目以降の平成24~27年度に15名の学生の派遣を考えているため、5年間で合計60名の日本人学生の留学を遂行する。受入留学生の数も同数である。

○ 外国人留学生の受入

プログラムで受け入れる外国人留学生を、各年度15名(初年度の受け入れは0名)受け入れることとしている。毎年、1校当たり2~3人の外国人学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	15	15	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

災害に対する強靱な国づくりのために災害復興経験を踏まえた人材育成が急務となっている(写真:岩手県上閉伊郡大槌町)



大学の世界展開力強化事業 平成23年度の成果 京都大学

【構想の名称】(タイプA-II)

強靱な国づくりを担う国際育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【構想の概要】

本構想では、東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダー養成を目的とした協働教育プログラムを開発する。単位相互認定及び質の保証を伴うこの教育プログラムを連携大学とともに実施し、他国での受講を推奨することにより、学生の相互交流と留学体験を推進する。さらに、ASEAN連携大学において日本人派遣学生の国際交流や若手研究者が英語教育を行える環境と、日本に受け入れる留学生や若手研究者が、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。

■ 協働教育プログラムの構築

○ 事業推進会議の実施

ASEAN連携大学(タイ:チュラロンコン大学・カセサート大学・アジア工科大学、マレーシア:マラヤ大学、インドネシア:バンドン工科大学、ベトナム:ベトナム国家大学)の参画メンバーを交えて、計9回の事業推進会議を実施した。24年度は大水害から復興過程にあるタイの3大学との交流からはじめ、その結果を踏まえて25年度から6大学全との交流をはじめることに合意した。また、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員による国際協働講義の実施方法と、それに基づくFDの進め方について合意した。

2011年度第8回事業推進会議の参加メンバー



○ カリキュラムの設定とシラバスの作成

基礎科目3科目、エンジニアリング科目3科目、マネジメント科目2科目からなる履修カリキュラムを確定させるとともに、全ての科目をある一定以上の成績で修得した学生に対して、履修コース「International Course on Approaches for Disaster Resilience」を修めたことを示すサーティフィケートを授与することを決定した。また、日本、タイそれぞれで実施するエンジニアリング科目の一環として、東日本大震災、ならびにタイの大洪水の現場や復興プロセスを視察・学修する機会を盛り込むことを決定した。さらに、講義修得後その経験を自国に還元できるカリキュラム体系を構築した。また個々の実施科目に関する詳細なシラバスを作成した。

2011年度第3回国際協働講義の様相(カセサート大学)



■ 国際協働講義の実施

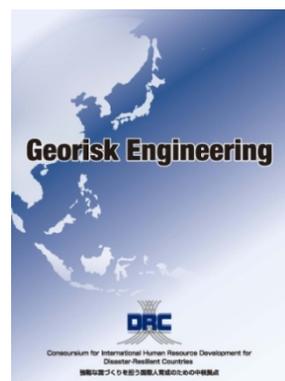
○ 模擬講義実施による講義ニーズの発掘とカリキュラムへの反映

次年度以降本格的に実施する協働講義に先だって交流模擬講義を合計5回(タイ3回、ベトナム2回)開催し、ASEAN連携大学学生の講義ニーズを発掘し、その内容を上記カリキュラムに反映させた。あわせて、若手教員の英語教育のFDの進め方について議論した。

○ 英文テキストシリーズの発刊

国際協働講義シリーズで用いる講義資料として「GeoRisk Engineering」を発刊した。引き続き、設定した講義で用いる英文テキストシリーズとして順次発刊する予定である。

作成した英文テキスト



■ 24年度交流学生の募集

○ 募集要項の作成と学内説明会実施

4月4日に学内の日本人学生向け説明会を実施(60名の参加)し、定員15名に対して26名の応募があった。現在運営会議にて対象学生を選考中である。

○ ASEAN連携大学における学生募集

24年度に交流を開始するタイ3大学において、本構想に参加する学生の募集を開始した。現在各大学の運営担当者により人選が勧められている。

オープニングシンポジウムの模様



■ 構想のPR

○ オープニングシンポジウムの実施

文部科学省から義本高等教育企画課長、本学より松本総長、ASEAN連携大学からの30名をはじめ、約200名の参加者を得て、本事業のオープニングシンポジウムを開催した。それにより参画大学間での本取組についての認識の共有化を図り、本事業の概要・目的を広く社会へ公表できた。

○ ホームページ、パンフレットの作成

上記で述べたこれまでの本構想の成果及び、概要を示すためのウェブサイトを構築し、また事業内容を説明する日本語版・英語版のパンフレットを作成した。詳細については<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>をご参照いただきたい。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【プログラムの目的・養成する人材像】

東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダーを養成する。

【構想の概要】

質の保証を伴うこの協働教育プログラムを連携大学とともに整備して、学生の相互交流と留学体験を推進し、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。それにより強靱な国づくりを担い国際的に活躍の出来る人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ファカルティディベロップメントの推進

24年度に計14回実施した事業推進会議や、参加学生に対するアンケート調査を通じて、教育プログラムに関するPDCAサイクルを推進した。その結果は、全連携大学が参加したファカルティディベロップメントシンポジウム(25年3月にバンコクで開催)において公表するとともに、25年度以降の交流計画へと反映された。

○ 国際協働教育プログラム履修に関するサーティフィケートの発行

2ヶ月間の交流プログラムを含む、強靱な国づくりを担う人材育成のための国際協働教育プログラムを履修した学生に対して、サーティフィケートを授与した。

○ 若手教員による国際協働講義の実施

交流教育プログラムに参加する教員のさらなる国際化を図るため、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員が相互に訪問して講義を担当する、国際協働講義を実施した(24年度13回)。

〈FDシンポジウムの参加者〉



■ 実施した交流プログラムの概要

〈グループワークの様相〉



○ ASEAN連携大学との双方向交流プログラム

タイの洪水被害の現場や東日本大震災の被災地の視察を含む、2ヶ月間の双方向交流プログラムを24年8-9月に実施した。日本人学生15名ASEAN連携学生15名の計30名が、8月には京都で、9月にはバンコクで共に学習する国際協働教育プログラムを設定し、同じ30名が2ヶ月間にわたって交流を深めた。

○ 学生ワークショップ

双方向交流プログラムの魅力を紹介し、日本人学生・ASEAN連携学生の相互交流を促す学生ワークショップを25年3月にカセサート大学で実施した。京都大学から18名とASEAN連携大学(3カ国5大学)から22名の計40名が参加した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 外国人留学生の受入れ

24年8月にASEAN連携大学からの15名を京都大学で受け入れた。9月に派遣予定の日本人学生とあわせた計30名が、約1ヶ月にわたる協働教育プログラムを受講した。

○ 日本人学生の派遣

24年9月に15名をカセサート大学へ派遣した。8月に来日した留学生15名とあわせた計30名が国際協働教育プログラムを共に受講して、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質を身につけた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	33	15	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

注) H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 参加学生のフォローアップ

短期交流プログラムの実施時期以外にも、参加学生へのメールニュース(25年5月時点でNo.109まで送信)の送付や学生を主体としたSNS上の交流を通じて、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質向上のためのフォローアップを実施した。

○ コミュニケーション能力向上への取組

英文レポート作成・プレゼンテーションに関する能力向上のための短期集中講習を25年6月に実施する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 英文テキストシリーズの刊行

教育プログラムにおける関係講義のテキストを英文テキストシリーズとして刊行している(No.1~No.6発刊済み)。

○ 交流成果の発信

事業内容や交流実績を紹介するwebpage(<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>)の充実や、ニューズレターの発行(25年5月にVol.2を発行)を通じて、交流プログラムの成果を広く発信した。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【プログラムの目的・養成する人材像】

東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダーを養成する。

【構想の概要】

質の保証を伴うこの協働教育プログラムを連携大学とともに整備して、学生の相互交流と留学体験を推進し、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。それにより強靱な国づくりを担い国際的に活躍の出来る人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ファカルティディベロップメントの推進

25年度に計9回実施した事業推進会議や、参加学生に対するアンケート調査を通じて、教育プログラムに関するPDCAサイクルを推進した。その結果は、全連携大学が参加したファカルティディベロップメントシンポジウム(25年11月に京都で開催)において公表するとともに、26年度以降の交流計画へと反映された。

○ 国際協働教育プログラム履修に関するサーティフィケートの発行

2ヶ月間の交流プログラムを含む、強靱な国づくりを担う人材育成のための国際協働教育プログラムを履修した学生に対して、サーティフィケートを授与した。

(コースオリエンテーション)

○ 若手教員による国際協働講義の実施

交流教育プログラムに参加する教員のさらなる国際化を図るため、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員が相互に訪問して講義を担当する、国際協働講義を実施した(25年度15回)。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(グループワークの様様)

○ ASEAN連携大学との双方向交流プログラム

タイの洪水被害の現場や東日本大震災の被災地の視察を含む、2ヶ月間の双方向交流プログラムを25年8-9月に実施した。日本人学生16名ASEAN連携学生15名の計31名が、8月には京都で、9月にはバンコクで共に学習する国際協働教育プログラムを設定し、同じ31名が2ヶ月間にわたって交流を深めた。

○ 26年度交流プログラム計画

8月に京都、9月にインドネシア・バンドンで、日本人学生・ASEAN連携学生合計31名による双方向交流プログラムを実施する準備を着実に進めている。26年度は上記に加えて、あらたに台湾成功大学から3名の学生が参加することが予定されている。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

25年9月に16名をカセサート大学へ派遣した。8月に来日した留学生15名とあわせた計31名が国際協働教育プログラムを共に受講して、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質を身につけた。

○ 外国人留学生の受入れ

25年8月にASEAN連携大学からの15名を京都大学で受け入れた。9月に派遣予定の日本人学生とあわせた計31名が、約1ヶ月にわたる協働教育プログラムを受講した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	33	16	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 参加学生のフォローアップ

短期交流プログラムの実施時期以外にも、参加学生へのメールニュースの送付や学生を主体としたSNS上の交流を通じて、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質向上のためのフォローアップを実施した。

○ コミュニケーション能力向上への取組

英文レポート作成・プレゼンテーションに関する能力向上のための短期集中講習を25年6月に実施した。26年度も6月に同様の講習を実施する予定である。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 英文テキストシリーズの刊行

教育プログラムにおける関係講義のテキストを英文テキストシリーズとして刊行している(No.1~No.10発刊済み)。

○ 交流成果の発信

事業内容や交流実績を紹介するwebpage(<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>)の充実や、ニューズレターの発行(26年5月にVol.4を発行)を通じて、交流プログラムの成果を広く発信した。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【プログラムの目的・養成する人材像】

東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダーを養成する。

【構想の概要】

質の保証を伴うこの協働教育プログラムを連携大学とともに整備して、学生の相互交流と留学体験を推進し、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。それにより強靱な国づくりを担い国際的に活躍の出来る人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ファカルティディベロップメントの推進

26年度に計5回実施した事業推進会議や、参加学生に対するアンケート調査を通じて、教育プログラムに関するPDCAサイクルを推進した。その結果は、全連携大学が参加したファカルティディベロップメントシンポジウム(26年11月に京都で開催)において公表するとともに、27年度以降の交流計画へと反映された。

○ 国際協働教育プログラム履修に関するサーティフィケートの発行

2ヶ月間の交流プログラムを含む、強靱な国づくりを担う人材育成のための国際協働教育プログラムを履修した学生に対して、サーティフィケートを授与した。

〈コースオリエンテーション〉

○ 若手教員による国際協働講義の実施

交流教育プログラムに参加する教員のさらなる国際化を図るため、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員が相互に訪問して講義を担当する、国際協働講義を実施した(26年度18回)。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈グループワークの様様〉



○ ASEAN連携大学との双方向交流プログラム

インドネシアの火山噴火被災地や日本の水害・土砂崩れ被災地の視察を含む、2ヶ月間の双方向交流プログラムを26年8-9月に実施した。日本人学生15名・ASEAN連携学生15名の計30名が、8月には京都で、9月にはバンドンで共に学習する国際協働教育プログラムを設定し、同じ30名が2ヶ月間にわたって交流を深めた。

○ 27年度交流プログラム計画

8月に京都、9月にバンコクで、日本人学生・ASEAN連携学生合計30名による双方向交流プログラムを実施する準備を着実に進めている。27年度は上記に加えて、台湾成功大学と新たに関西大学、ブラウイジャヤ大学、アジスアベバ工科大学から学生が参加することが予定されるなど、他の大学を巻き込んだ取組として発展している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

26年9月に15名をバンドン工科大学へ派遣した。8月に来日した留学生15名とあわせた計30名が国際協働教育プログラムを共に受講して、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質を身につけた。

○ 外国人留学生の受入れ

26年8月にASEAN連携大学からの15名を京都大学で受け入れた。9月に派遣予定の日本人学生とあわせた計30名が、約1ヶ月にわたる協働教育プログラムを受講した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	33	16	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

注)H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 参加学生のフォローアップ

HPやFacebookを利用した事業の活動状況の紹介や情報の提供、SNS上での学生同士の交流を通じて、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質向上のためのフォローアップを実施した。

○ コミュニケーション能力向上への取組

英文レポート作成・プレゼンテーションに関する能力向上のための短期集中講習を26年6月に実施した。27年度も6月に同様の講習を実施する予定である。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ 国際化支援体制強化事業「留学生短期受入プログラム」の立ち上げ

平成25年度に策定された「京都大学の国際戦略(2x by 2020)」のもと、世界に通用する国際力豊かな人材を育成するため本構想における交流プログラムの枠組を援用した「留学生短期受入プログラム」を開始した。

○ 交流成果の発信

事業内容や交流実績を紹介するwebpage(<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>)の充実や、ニュースレターの発行(27年5月にVol.6を発行)を通じて、交流プログラムの成果を広く発信した。また、テキストシリーズをVol.17まで発刊している。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 京都大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 ー災害復興の経験を踏まえてー

【プログラムの目的・養成する人材像】

東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダーを養成する。

【構想の概要】

質の保証を伴うこの協働教育プログラムを連携大学とともに整備して、学生の相互交流と留学体験を推進し、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。それにより強靱な国づくりを担い国際的に活躍の出来る人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ファカルティディベロップメントの推進

27年度に計5回実施した事業推進会議や、参加学生に対するアンケート調査を通じて、教育プログラムに関するPDCAサイクルを推進した。その結果は、全連携大学が参加したファカルティディベロップメントシンポジウム(28年1月にバンコクで開催)において公表し、事業終了後の交流のありかたを検討した。

○ 国際協働教育プログラム履修に関するサーティフィケートの発行

2ヶ月間の交流プログラムを含む、強靱な国づくりを担う人材育成のための国際協働教育プログラムを履修した学生に対して、サーティフィケートを授与した。

〈コースオリエンテーション〉

○ 若手教員による国際協働講義の実施

交流教育プログラムに参加する教員のさらなる国際化を図るため、京都大学・ASEAN連携大学の若手教員が相互に訪問して講義を担当する、国際協働講義を実施した(27年度28回)。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈グループワークの様相〉



○ ASEAN連携大学との双方向交流プログラム

タイの洪水被害の現場や広島土砂災害の被災地の視察を含む、2ヶ月間の双方向交流プログラムを27年8-9月に実施した。日本人学生15名ASEAN連携学生15名の計30名が、8月には京都で、9月にはバンコクで共に学習する国際協働教育プログラムを設定し、同じ30名が2ヶ月間にわたって交流を深めた。

○ 28年度交流プログラム計画

補助事業終了後も京都とバンコクで、日本人学生・ASEAN連携学生合計30名による双方向交流プログラムを実施する準備を進めている。台湾成功大学と関西大学を巻き込んだ取組として発展させるとともに、自立的に運用できる枠組へ改良する予定である。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

27年9月に15名をカセサート大学へ派遣した。8月に来日した留学生15名とあわせた計30名が国際協働教育プログラムを共に受講して、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質を身につけた。

○ 外国人留学生の受入れ

27年8月にASEAN連携大学からの15名を京都大学で受け入れた。9月に派遣予定の日本人学生とあわせた計30名が、約1ヶ月にわたる協働教育プログラムを受講した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	33	15	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 参加学生のフォローアップ

HPやFacebookを利用した事業の活動状況の紹介や情報の提供、SNS上での学生同士の交流を通じて、強靱な国づくりを担うリーダーとなる資質向上のためのフォローアップを実施した。

○ コミュニケーション能力向上への取組

英文レポート作成・プレゼンテーションに関する能力向上のための短期集中講習を27年6月に実施した。28年度も6月に同様の講習を実施する予定である。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ 国際化支援強化事業「留学生短期受入プログラム」の立ち上げ

平成25年度に策定された「京都大学の国際戦略(2x by 2020)」のもと、世界に通用する国際力豊かな人材を育成するため本構想における交流プログラムの枠組を援用した「留学生短期受入プログラム」を開始した。

○ 交流成果の発信

事業内容や交流実績を紹介するwebpage(<http://www.drc.t.kyoto-u.ac.jp/>)の充実や、ニュースレターの発行(28年3月にVol.8を発行)を通じて、交流プログラムの成果を広く発信した。また、テキストシリーズをVol.21まで発刊している。